

桜 生 工

2014 日本大学生産工学部校友会誌

Vol.44 CONTENTS

ごあいさつ

生産工学部校友会会長 高野和雄	——2
生産工学部学部長 落合 実	——2
落合 実 生産工学部長就任祝賀会	——3
平成26年度代議員総会	——4
平成26年度代議員総会懇親会	——5
桜泉祭・母校を訪ねる会	——6
工科系校友会連絡会・支部長会	——7
第9回日進会ゴルフコンペ	——7
読売ジャイアンツドラフト2位指名 戸根千明投手	——8

OB紹介

建築工学科非常勤講師	内村綾乃	——9
台北京都商務旅館 台北東京国際飯店社長	徐 銀樹	——10
株式会社トヨムラ医療総合研究所	豊村信夫	——11
	学科ニュース	——12
	箱根駅伝	——16



生産工学部校友会会長

高野 和雄

校友の皆様におかれましては、益々御清栄で御健勝の趣、心より御慶び申し上げます。

本年 9 月に開催された日本大学理事会において、理事に再び任命されると共に、日本大学校友会スポーツ振興特別委員会委員長を拝命致し、日々精励致しておりますことを校友の皆様方に先ず御報告申し上げます。また、日頃から多大な御協力を賜わり深く感謝申し上げます。

同理事会において、石井進生産工学部校友会相談役は常務理事に再任され、総務、本部付置大学院、創立 130 周年記念事業募金の担当を拝命されました。

創立 130 周年記念事業として建設中であった日本大学藤沢小学校の校舎・体育館が完成し、7 月 31 日竣工式が行われました。本学において小学校の創設は長年の夢であり、幼稚園から大学までの一貫教育が来春から実現できることになりました。

「日本一教育力のある大学」を目指す基盤が確立したと言えます。

このような「先見の明」と言える施策に対し、校友会はできる限りの支援を惜しみません。生産工学部校友会は、学部発展のための物心両面からの支援も勿論惜しみません。

また、毎年 1 月 2 日・3 日に行われる箱根駅伝を初め日本大学のスポーツ関連の部活動に対しても深く御理解下さり、御協力と御支援を賜わりたく御願ひ申し上げます。

今後共、校友会活動を通して母校の発展に寄与したく尽力致す所存でございますので、倍旧の御指導、御支援の程、心より御願ひ申し上げます。



日本大学生産工学部長
生産工学部校友会名誉会長

落合 実

校友の皆様におかれましては、益々御健勝で御活躍のことと、心より御慶び申し上げます。

本年 4 月 1 日より、松井勇前学部長の辞任に伴い学部長に就任致しました。

学部発展のため尽力致す所存でございますので、どうか宜しく御願ひ申し上げます。

大学に入学する 18 歳人口が減少する「2018 年問題」を視野に入れ、「生産工学部らしさ」の創造と実践を更に推進し、いろいろな魅力を持つ学部・学科を実現したいと思っております。

それには、「先見の明」を持たねばならないと考えています。

先を見据えながら「教育・研究環境の更なる充実」「教育・研究内容の更なる発展と改革」「研究者・教育者・社会貢献者へのライト・アップ」「社会・地域貢献と海外学術交流の推進」「新学科設立の検討」等々 7 つの柱を立て、教育・研究者としての『人材』、有意な教育・研究『活動』、魅力あふれるキャンパス『環境』の深い関連性を認識し、4 月から実践しております。

9 月 30 日、田中英壽理事長と大塚吉兵衛学長の就任式が執り行われました。

その御挨拶の中で、二人は「2018 年問題」にそろって言及され、「淘汰の時代」を乗り切るために「教育環境の更なる充実」と「各学部・学科の特長を前面に押し出すこと」と述べられました。

まさしく 4 月から学部で取り組んでいることと合致し、意を強くした所です。

更なる生産工学部の発展のために、校友会・卒業生の皆様の倍旧の御理解、御支援、御協力を賜わりたく、心より御願ひ申し上げます。

落合 実 生産工学部長 就任祝賀会

平成26年7月5日(土)、帝国ホテル富士の間において、土木工学科落合実教授の学部長就任祝賀会が催されました。

午後6時より行われた祝賀会には、田中英壽日本大学理事長、石井進日本大学常務理事、田中範男日本大学常務理事、板橋文男日本大学常務理事をはじめ、小向井秋三日本大学法学部事務局長、高野和雄日本大学理事、佐々木修一日本大学生産工学部事務局長、鈴木秀雄日本大学学生支援部長、松井勇日本大学生産工学部前学部長、逆井彰日本大学広報部長、株式会社日本大学事業部鈴木孝司様のご来賓をお招きして行われました。

会場には、ご来賓24名、教職員159名、土木工学科卒業生286名、校友会等の関係者71名、総勢540名のご列席がありました。

はじめに、発起人代表として土木工学科主任の伊藤義也教授より開会の辞があり、次に、田中英壽日本大学理事長、松井勇日本大学生産工学部前学部長の祝辞があり、引き続きご来賓ならびに生産工学部執行部のご紹介の後、落合実新学部長と令夫人へ土木事務室の大場眞依さんと間嶋希知さんより花束の贈呈が行われ、謝辞として落合実新学部長より、学部長としての抱負が述べられました。続いて、石井進日本大学常務理事の乾杯のご発声により開宴されました。宴は、落合実新学部長を囲んでの談笑や今後のご活躍を期待する声など、終始和やかにかつ盛大に催されました。

最後は、日本大学理事ならびに生産工学部校友会会長である高野和雄様の閉会の辞でお開きとなりました。



落合実 生産工学部長



田中英壽 日本大学理事長



懇親会会場

平成26年度 生産工学部校友会代議員総会 懇親会

生産工学部校友会代議員総会終了後、懇親会が開催されました。始めに高野和雄生産工学部校友会会長の会長職の再選とこれからの生産工学部校友会の進むべき方向性の挨拶がありました。

つづいてご来賓である田中英壽理事長より日本大学が目指すゴールは「日本一教育力のある大学」への再生で、財政改革と自主創造教育の確立という経営戦略と教学戦略の両輪により、「私学の雄」の復活をめざしております。などのお話をいただきました。

次に大塚吉兵衛学長には、生産工学部が国際的に通用する技術育成に具体策を講じられているなどのお話をいただきました。落合実生産工学部長には、これからも生産工学部校友会による、生産実習や就職支援など、さらに校友会の力をいただきたい旨のお話があり、最後に石井進常務理事より日本大学130周年にむけた目標などのお話がありました。

懇親会はいよいよ和やかな祝宴となりました。



ご挨拶される 田中英壽 理事長



ご挨拶される 大塚吉兵衛 学長



ご挨拶される 石井進 常務理事



ご挨拶される 落合実 生産工学部長



高野和雄 生産工学部校友会会長



懇親会会場

桜泉祭・母校を訪ねる会

平成26年11月2日（日）に「母校を訪ねる会」が開催されました。受付の後学内見学で桜泉祭や研究室をご覧いただき、16時から39号館2階食堂で懇親会が開かれました。

今年度は卒業50年（昭和39年卒業）、卒業40年（昭和49年卒業）、卒業30年（昭和59年卒業）、卒業20年（平成6年卒業）、卒業10年（平成16年卒業）、新代議員ならびに教職員OBを招待して開催の運びとなりました。式次第は開会の辞・学部長挨拶・校友会長挨拶・校友会相談役挨拶・学部執行部紹介・校友会役員紹介・乾杯・歓談・招待者参加者数報告・中締・閉会の辞です。

落合学部長からのご挨拶では、「久しぶりに母校にいらした方は校舎が増えたことに驚かれたのではないのでしょうか。また、土木工学

科と建築工学科には最近の耐震基準に合わないため、建て替えが必要な古い校舎も残っているため建て替えの計画を進めています。これから先もまた変わって行きますので、校友の方々のご理解をお願いいたします。」とのお話でした。

また、乾杯は生産工学部建築工学科卒業の逆井彰事務局長に音頭を取っていただきました。和やかな歓談のうちに閉会を迎え、それぞれ各学科や有志の方々に分かれて、さらに旧交を深められた様子でした。ご参加の皆様ありがとうございました。

また、天候にも恵まれ桜泉祭も学生、OBや近隣の方々にたいへん盛大な大学祭になり日本大学生産工学部が活気で満ち溢れました。



逆井彰 生産工学部事務局長



懇親会会場



懇親会会場



桜泉祭

工科系校友会連絡会・工科系校友会支部長会

第32回日本大学工科系校友会連絡会、及び第17回日本大学工科系校友会支部長会が、平成26年8月30日（土）、日本大学校友会館で開催されました。4学部校友会幹事と北海道から九州までの各支部長が参会され、各支部の現状報告等がなされました。懇親会はご来賓として山本寛理工学部長、

出村克宣工学部長、落合実生産工学部長、逆井彰生産工学部事務局長、塚本一道薬学部事務局長をお迎えし当番校である深澤豊史理工学部校友会会長の開会の辞ではじまりました。会は和やかな祝宴になり最後は次回当番である手塚公敏工学部校友会会長の閉会の辞でお開きとなりました。



第9回日進会（教職員・校友会合同）ゴルフコンペ

平成26年10月4日（土）〈日本大学創立記念日〉、大栄カントリークラブに於いて、生産工学部教職員と校友会幹事等で合同ゴルフコンペを15組で開催致しました。

競技方法は18ホール新リペア方式・上限なし（同ネットは年長者上位）で行われました。個人戦優勝は内山芳弘さん（生産事務局）

準優勝は時田芳人さん（校友会マネジメント）、3位は高橋一敏さん（校友会電気電子）でした。団体戦は生産工学部教職員（グリーン会）チームが優勝しました。

天候にも恵まれ今年も教職員と校友会が仲良くゴルフを満喫し和やかに表彰式と祝宴が催されました。



読売ジャイアンツドラフト2位指名 戸根千明投手

10月23日開催のプロ野球ドラフト会議にて戸根千明投手（法学部4年）が読売ジャイアンツ（巨人）に2位指名を受け、日本大学生産工学部津田沼校舎スプリングホールにて記者会見が行われました。会場では落合実野球部部长（生産工学部部长）と日本大学野球部員が見守る中、山下スカウト部部长から指名のごあいさつを受けました。戸根千明投手は京都京田辺市生まれ173センチ93キロ左投左打大胸筋115センチを武器に3年秋の2部リーグで

防御率1位（1.72）をマークしました。大学2年から野球を極めるために肉体改造に目覚め、徹底した筋トレに1日8度の食事と体を作り上げたようです。読売ジャイアンツでは既に長野久義外野手（生産工学部マネジメント出身）が活躍中ですが、彼同様、日本を代表するプロ野球選手として成長されることを期待いたします。生産工学部校友会は、これからも戸根千明投手と日本大学野球部を応援いたします。



落合実野球部部长と戸根千明投手



生産工学部実習野球部練習場



喜ぶ日本大学野球部員

OB紹介

建築工学科非常勤講師
A studio主宰

内村 綾乃 (建築工学科 平成2年卒業)

「日本建築学会賞(作品)」を受賞して



在学中からアトリエ系と呼ばれている個人の設計事務所で働きたいと考えていました。いくつかの事務所でアルバイトはしていましたが、呑気だったのか就職活動もあまりしていない状況で、ようやく3月も末に入り、空間研

究所にアルバイトからお世話になることになりました。この時は25年のお付き合いが始まるとは夢にも思ってはいませんでした。

今回、日本建築学会賞(作品)を受賞しました。「SHAREyaraicho」は空間研究所代表である篠原聡子氏との共同受賞です。大学卒業から8年間お世話になった後、A studioを立ち上げ独立しましたが、仕事のみならず、プライベートでもお付き合いが続いております。そして、共同設計という機会をいただいたこと大変感謝しております。「SHAREyaraicho」は血縁の家族によらない7人が暮らすシェアハウスです。現在、20代~40代の男性4名、女性3名が住んでいます。当初はワンルームの集合住宅とする計画で、もし30㎡のワンルームをつくるとしたら、7室程度が可能でした。しかし、それぞれにバスルームとキッチンをつくる不合理は建設コストのみならず、何よりも空間の貧しさが立ち現れます。共同設計者である篠原聡子氏は日本女子大学教授でもあり、単身者居住に関する研究を専門としており、多様化した単身者居住に対して、ワンルームでも、家族用住居でもない住まいのオルタナティブがもとめられていると論じています。そうした状況に対して、血縁の家族によらない「シェア」居住は、ひとつの可能性を持つに違いないと考えました。そこで、ユニットではなく、7人

が住むための住宅として計画することとしました。水回りやキッチンをシェアすることで、あまった容積と気積が生まれ、新たな集住のデザインの契機となりました。計画は高さ10mの大きな箱の中に、個室と水回りのための4つの小さな箱を垂直方向に60cmの隙間を開けて挿入し、その小さな箱は、7人のプライバシーのある個室空間をつくとともに、その配置によっていくつかの異なる形態のCOMMONスペースをつくりだしています。この隙間は、個室間のプライバシーを確保し、同時にこれらのCOMMONスペースを緩くつないでいます。(写真1,2)

1階のエントランスは土足で入れる作業があり、外来者が気軽に立ち寄れる、この家と地域との接点となる場所です。この個室とCOMMONスペースのつながりと社会に開く試みが多くの方に評価をいただきました。半透明のテントは社会とつながるフィルターであり、この場所の性質によって変化し、隙間は居住者の住みこなしにゆだねられる部分であり、新しい血縁によらない家がどんな形でありえるかの実験は継続中です。(写真3)

そして、その実験を自ら実践すべく、「SHAREyaraicho」の住人となりました。実際、血縁によらない7人によって、シェアが円滑に機能するためには、それを運営するためのオペレーションが重要なカギになります。通常設計者は竣工後、暮らしに関しては自らの手を離れてしましますが、両方に加担しているという面白い立場にいます。住まい方の提案を実践していると共に、オーナーが関わることでできるプロトタイプであると感じています。住人の顔が見え、気軽に関係性を持つことができる「シェア」居住はまさに住まいのオルタナティブであると考えます。「SHAREyaraicho」の竣工1年半後に、徒歩数分の距離に木造3階建て一軒家をリノベーションしたシェアハウス(シェア2)が加わり、現在新たな展開として、店舗を伴う15室程度のシェア3を計画中です。単身者だけでなく、家族世帯や高齢者のシェアに可能性があるのではないかと模索しています。



写真3



写真1



写真2

OB紹介

台北京都商務旅館、台北東京國際飯店社長 徐銀樹（生産工学研究科 昭和63年卒業）



私は1981年3月から日本に留学後、1986年3月、日本大学大学院生産工学研究科に入学、1988年3月に同科の修士号を取得しました。帰国後台湾日本大学校友会の創立に努め、その後、校友会の理事、監事選挙で多くの支持を頂き、現在は本会の常務理事

を務めています。また、2013年に第3回台湾日本大学校友会最優秀学友賞を戴きました。私は台北で京都商務旅館と東京國際飯店を経営しています。「京都」「東京」の名が示すように、これらのホテルには母校で学んだ日本の経営理念と留学時代の通訳ガイドの経験から得た日本の細やかなホスピタリティが反映されています。お蔭様で、日本のお客様から常に高い評価を得ているのみでなく、台湾政府の関係機関からも幾度も表彰を受けています。

これまでの20年間、政府とともに観光産業の発展に努め、多くの組合、協会の理事、監事を歴任しました。特に2004年11月から2011年4年にかけて、台北市ホテル・旅館商業組合理事長を、2011年2月から現在に至るまで中華民國ホテル・旅館商業組合全国連合会理事長を務めています。

母校では労務管理を専攻し、企業内における福利厚生の大切さを学びました。このことは、自営

するホテルのみでなく、組合理事長として、台湾のホテル業界全体のサービス向上と職場環境の向上の指導を行うにあたって、大いに役立ちました。更に業界の現状や実務を次の世代に伝えるべく、2001年から今日までの13年間、私立及び国立大学の観光関係学科でも教鞭をとり、当業界での実習と就職の機会を創出し、理論と実務を兼ね備えた人材の育成に努めてまいりました。その甲斐あって、台湾では現



台日観光交流

在、ホテル産業は幸福産業、希望産業と言われるまでになり、業界自体が注目を集める産業に発展して参りました。

2011年3月11日の東日本大震災のニュースに私は大きな衝撃を受け、お世話になった日本に何かしたいという一心で、津波、原発事故等の混乱が収まらぬ3月28日に東京に、29日には福島に入り、被災地の方々を見舞い、帰国後も台湾のホテル業界・旅館組合を通じて義捐金を募りました。これらの活動が評価され、日本観光経済新聞と台湾の新聞に報道されました。

私は常に母校を誇りとし、名刺には「日本大学大学院生産工学研究科卒業」の一行を記しています。今後も日本大学大学院卒業生として、微力ながら日本と台湾の観光業発展のために尽力したいと願っております。

皆様のご来訪を心よりお待ちしております。台湾にお越しの際は、是非ご一報ください。（Mail address:alfredhsu@hotmail.com）



東京國際飯店外觀



京都商務旅館外觀

OB紹介

株式会社 トヨムラ医療総合研究所
代表取締役社長

豊村 信夫 (工業化学科 昭和59年卒業)

昭和58年度は、第二次石油危機を端緒とした不況が長引き、4年生大学卒業を目前に控えた学生にとっても就職難の年であった。女子の大学進学率が上昇した時代だが、雇用情勢の悪化は女子大学生にも困窮をもたらしていた。非常に厳しい状況のなかではあったが、就職戦線を闘う同志は、最善の道を追う姿勢を揺るがすことなく就職活動に挑み続けていた。懐かしく開くアルバムには、苦楽を共にした同志の笑顔が並び、私にとって今尚進歩の姿の原点であると感じてならない。

私は大学3年後期から当時の穴沢先生、鈴木先生の尊命により、埼玉県和光市の理化学研究所（有機合成化学研究室）にて、約1年3ヶ月の間「天然有機化合物の基礎合成」をテーマとした卒業論文に従事した。理研の研究室では他大学の学生と共に、朝から夜遅くまで切磋琢磨しながらの論文作成。時には同研究の学生達と酒を飲んで親睦を深めたことを今でも思い出す。卒業して29年が経過しても他校の学生関係なく交流が続けられるのは、研究室で常に厳しさと親身ある指導を受けたからこそなのかもしれない。また、指導にあられた先生方は、旧帝国大学の薬学博士課程修了者であり、学生達はレベルの差を見せつけられたものだ。

本学への大学院に進むよう先生方に勧められた。しかし、私は一般サラリーマン家庭の育ちであるため、親への負担も考え自立したいという気持ちがあった。また、迷うことなく就職を選んだ大きな理由は、卒業論文を完成させたことで、4年間の学びや経験を活かす力に自信を持ち、社会に出て成果を出したいという強い意志がはっきりとしたからである。



研究に意欲的にチャレンジした学生時代

卒業後、外資系製薬会社（現在のGSKグラクソ・スミスクライン株式会社）に医薬情報担当者（MR）として職に就いた。当時、米英で開発された夢の新薬「H2拮抗剤」を医療機関への医薬情報活動で、胃潰瘍手術治療が内服で激減することに貢献出来たことは、今日のGSK社の開発力の証かもしれない。このような素晴らしい企業の一員になれたことで、仕事に対するプライドと向上心を持つことができた。

入社早々に待ち受けていたものは自己練習の日々であった。4ヶ月間の研修は新たに与えられた過酷な試練であり、薬学部学生4年間のテキストを量にしてダンボール3箱分、日々教科ごとの試験に向き合った。この時の支えは母校で経験を積んだ精神力に他ならない。日大の卒業生として、他校から入社した者には負けまいと日夜精進を重ねる。

MRの仕事は薬の知識が豊富であることが重要であるが、訪問先の医療従事者とのコミュニケーションや、処方権を持つ医師一人ひとりの性格を見抜き接する能力も必要となる。新しいものに対する関心の強い私は、薬の知識だけではなく、医療機関の特徴や地域ニーズなど医療経営全体を理解したMRを目指すようになる。医療界の新しい動向を的確に把握し、常に学び続けることに貪欲であった。その積み重ねにより多くの医師との信頼関係を築くことができたのである。

私はまたもや人生の選択をする時を迎える。MRとして働いた数年間で、経営に悩む医師が増え、他医療機関との差別化が求められる時代となっていた。30歳にして選択権と向き合う私は、まるで卒業論文を完成させたあの頃と同じように、湧き上がる自信と強い意志に導かれ、独立決意し医療コンサルタント会社を開業した。

独立後、経営支援全般にわたりマネジメント活動をおこなってきたが、軌道に乗るまでは以前の3倍働かなければならなかった。独立後約10年間、医療系専門学校にて病院管理学・医学薬学概論の講師も勤め、多くの卒業生を医療現場へ送り出した経緯もある。厳しい現実を直視し強く歩み続けてきた私は、現在、総合医療マネジメント会社として、医薬・薬業の独立支援から経営・労務・人事教育、資産リスク分散のセミナーなど幅広くサポート活動をしている。

「会社」もまたそれぞれブランドであると考えている。トヨムラ医療総合研究所というブランドには、感謝してもしきれないたくさんのファンがあり今まで繁栄することができた。ファンがいる限り、成長のための学びを止めることはないだろう。日大での学生生活は、自立への道を自らの力で歩むことの大切さを教えてくれた。母校を誇りに思う気持ちは生涯持ち続けるだろう。



社長として仕事を志事と考え日々向き合う

機械工学科

【学生数】学部790名 大学院（前期）75名 大学院（後期）6名

【人事】大阪大学接合科学研究所より前田将克氏が准教授として着任されました。前田准教授は溶接・接合を専門とされ、材料を溶融させずに接合する固相接合・低温接合に対して材料学的観点から研究されています。

菅沼祐介氏が助手として着任されました。菅沼助手は平成19年3月に本学生産工学研究課博士前期課程を修了され、(株)IHIエアロスペースにてイブシロンロケットの構造設計や生産技術の業務に就かれていました。専門は燃焼工学で、野村教授の下で噴霧燃焼メカニズムに関する研究に取り組まれています。



前田将克准教授



菅沼祐介助手

【トピックス】ここ数年、機械工学科では教員の世代交代が進んでいます。校友の皆さまの温かいご支援を賜りながら、機械工学科の更なる発展に向けて教職員一丸となって邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

その他、機械工学科のホームページ (<http://www.me.cit.nihon-u.ac.jp/>) にて様々なニュースを紹介していますので、ご興味のある方はそちらもご覧ください。

電気電子工学科

【学生数】学部729名 大学院（前期）26名 大学院（後期）1名

【トピックス】○大谷先生が名誉教授の称号を授与されました。本年2月7日の学部長会議において、本学科元教授大谷義彦先生に名誉教授の称号授与が承認されました。大谷先生は昭和37年10月1日に理工学部の副手として勤務されてから48年間、昭和62年4月1日に教授を拝命してからだけでも、22年間の永きに亘り教育と研究に携わるとともに、本学部と学科の発展のために尽力されました。大谷先生は現在も非常勤講師として照明工学、回路理論、大学院の照明工学特講などの講義をご担当されております。今後も学科の発展のため、ご助力をお願いいたします。

○M2富樫健二君が台湾で実習をしました。平成25年度より、大学院の生産実習（生産工学特別実習）がカリキュラムに組み込まれました。電気電子工学専攻の富樫健二君はこの科目を履修し、3月3日～13日の間、台湾の中國科技大學にて実習を行いました。実習では画像処理や誤り訂正などの技術を伊先生に1対1で詳しく教えていただきました。また、現地の学生に混じって自分の研究についての発表も行いました。学問だけではなく様々な場所の見学や、いろんな人との交流を通じ、沢山の貴重な体験ができました。



大谷名誉教授



お世話になった先生方と実習を行った学生
(中央が富樫君、向かって左端が伊先生)

土木工学科

【学生数】学部839名 大学院（前期）32名 大学院（後期）4名

【人事】平成26年度学科運営では、伊藤義也教授が学科主任に任命され、秋葉正一教授が専攻主任に再任されました。また、学部運営では、落合実教授が学部長に就任するとともに、小田晃教授が就職担当、就職指導委員長、澤野利章教授がガイダンス専門委員長、入学試験検討専門委員長、秋葉正一教授が入試試験実施専門委員長、阿部忠教授が学部等自己点検・評価委員長に任命・再任されています。また、本年4月からは、木下誠也教授、中村倫明助手が、土木事務室には大場真依助手が着任され、教授12名、准教授2名、助教5名、助手2名、事務室2名の計23名のスタッフで学生及び院生の指導・支援に尽力しています。なお、本年4月には、大木宜章教授が定年退職されました。長年にわたり本学科の発展に貢献いただき大変感謝しております。引き続きご指導を賜りますようお願いいたします。

【トピックス】落合教授の学部長就任祝賀会を7月5日に帝国ホテルにて開催しました。卒業生、教職員および関係者ら総勢550名が出席して盛大な祝賀会となりました。ご来場いただいた皆様に紙面を借りて感謝申し上げます。9月には、3年生の科目である生産実習「現場研修」を実施し、東京外かく環状道路千葉区間の建設現場、鬼怒川上流ダム群(川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム)の見学を行い、土木構造物のスケールの大きさに学生は圧倒されていました。また、恒例のOB講演会には、栃木県庁の分田久貴氏をお招きし、県庁の行政や公務員としての仕事への取り組み方などについて大変貴重なお話を伺うことができ、非常に充実した研修会となりました。関係各位のご協力に感謝いたします。



分田氏のご講演



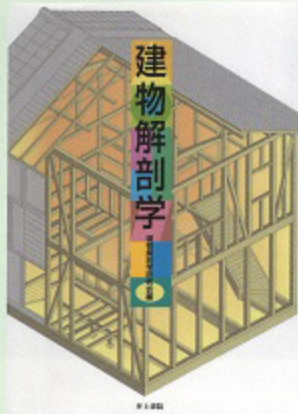
3年生現場研修

建築工学科

【学生数】学部809名 大学院（前期）57名 大学院（後期）2名

【人事】学科主任に小松博教授、専攻主任に塩川博義教授が選任されました。廣田直行教授が学生担当に任命されました。永年にわたり教育・研究並びに学部の運営に尽力されました櫻田智之教授が2013年12月に、松井勇教授（前生産工学部長）が2014年4月に定年退職されました。なお、両先生には日本大学名誉教授の称号が授与されました。新任教員として水野優子助手が4月に着任されました。

【トピックス】○建築工学科の教員で分担執筆した「建物解剖学」が2014年6月に刊行されました。完成した建物は、屋根、外壁、床、天井といった外観しか見ることはできません。そこで本書は、建築を学ぶ初学者でも建物の部位や局所を建物全体の仕組みのなかで理解できるよう、木造住宅を例にあげ、建物の表面を覆っている仕上げを取り除き、内部がどのような構造になっているかを観察しながら、建物の構成、各部の役割、仕組み、部材間相互の関連について解説しています。○2014年より、全学科共通の新設科目として「2年次ゼミ」がスタートしました。建築工学科では、課題の一つとして「キャンパスデザインを考える」というテーマを設定し、学生達はチームを組んで津田沼キャンパスの現状調査を行い、数週間かけてキャンパスの改善案を検討しました。



「建物解剖学」

（建物解剖学研究会編、B5版、2,500円、井上書院）



○津田沼校舎全体に統一感を持たせるための工夫

・外壁の仕上げをレンガ調にする。
（図書館、37号館、2号館食堂など）

・ガラスファサードを多用する。

2年生によるキャンパスデザインの提案例

応用分子化学科

【学生数】学部731名 大学院（前期）55名 大学院（後期）1名

【人事】平成26年度は山田和典教授が学科主任を再任され、専攻主任は日秋俊彦教授が任命されました。今年度研究所教授として原口和俊研究所教授（材料化学、高分子・繊維材料）が財団法人川村理化学研究所から4月に着任され、学生の教育研究指導に活躍されています。これにより平成26年度4月現在の教員構成は教授10名、研究所教授1名、准教授7名、専任講師2名、助教2名、助手1名で研究室数は15となっています。なお、学科に関する最新の情報はホームページ（<http://www.ic.cit.nihon-u.ac.jp/index.html>）をご覧ください。

【トピックス】○3月25日に日本武道館において開かれた日本大学卒業式（午前の部）において早川真理子さんが卒業生答辞を立派に読みあげました。○学外オリエンテーションは4月19日から1泊2日の日程で潮来ホテルに宿泊し、江戸崎農場公園ボティロンで森では飯盒炊飯とカレー作りを班ごとに分かれて行い、新入生同士や教員との親睦を深めました。○藤井孝宜教授は、日本大学海外派遣研究員（短期B）として平成25年8月より3ヶ月間カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ）ベルトラン教授の下で、有機金属触媒に関する研究に取り組みされました。○7月31日に千葉県総合教育センター主催の科学技術研修（化学コース）を実施し、2名の教員による講義や講座（テーマ①「遺伝子工学の基礎～DNAの酵素による操作」野呂知加子教授、②「実験で学ぶ分離操作の基礎」保科貴亮准教授）を通じて千葉県内の公立小・中・高等学校等で理科を担当されている教員の研修に協力しました。



日本大学卒業式（午前の部）での卒業生答辞



海外派遣出張中の藤井孝宜教授（ベルトラン教授と）

マネジメント工学科

【学生数】学部757名 大学院（前期）20名 大学院（後期）2名

【トピックス】マネジメント工学科は「ビジネスマネジメントコース」、「経営システムコース」、「フードマネジメントコース」の3コースの体制で、工学の基礎知識や方法論をベースにしたマネジメントに関する知識と手法を教育しています。特にフードマネジメントコースは、外食チェーンの店長など比較的若い年代からマネジメント能力を要求されるフードビジネス業界において活躍出来る人材を育成すること目的に設置されたユニークなコースです。2年目になって「フードサプライシステム」や「海外市場展開」などの専門科目の講義や「食材の品質評価」などの実験も開始され、コースの学生も意欲的に取り組んでいます。本年4月からは、フードマネジメントコースには、フードマネジメント概論などを担当される山本壽夫教授、そして経営システムコースには、人間-機械システムなどを担当される石橋基範准教授と生産管理などを担当される大江秋津助教、またビジネスマネジメントコースには経営戦略などを担当される水上祐治助教が教員に加わりました。今後も、学科の特色をさらに活かして、当学科の活性化へ向けて取り組んで参ります。



食材の品質評価の実験風景



株式会社すかいらーくでの生産実習風景

数理情報工学科

【学生数】学部650名 大学院（前期）50名 大学院（後期）3名

【トピックス】○「学部3年生が2件情報処理学会学生奨励賞を受賞」○数理情報工学科では多数の大学院生が学会発表等を行います。2013年11月には児玉雄祐君と西岡木淳君が国際会議IEEE-WRTLで発表、同年12月には倉本健介君が国際会議WSC2013で、2014年5月には高橋将平君と山田昂君がROBOMECH等で発表しました。そして、2014年3月には自動車技術会から鈴木雄祐君が大学院研究奨励賞を受賞。大竹駿希君は日本デジタルゲーム学会から学生奨励賞を受賞する等、その成果は学外でも高く評価されています。大学院生が活躍する中、学部生による学会発表も数理情報工学科では積極的にすすめています。2014年3月に開催された情報処理学会には3年生が5件の講演を行い、そのうち田中和幸君と新倉春樹君が学生奨励賞を受賞しました。他大学においても学部4年生が学会発表する例は多いですが、3年生で発表する学生が多い数理情報工学科はいつも一際目立ちます。このように、数理情報工学科では学会でも活躍できる学部生を育てて社会に送り出しています。



歴史家の研究支援ツールに関する研究で
学生奨励賞を受賞した新倉君



災害時の避難計画立案ツールに関する研究で
学生奨励賞を受賞した田中君

環境安全工学科 【学生数】学部542名

【トピックス】環境安全工学科では、平成25年度10月に学科最大のスペースである40号館1階101室大型実験室に「低圧環境共同実験システム（通称LINCS）」が導入されました。直径3m、奥行き6mの大型容器で大容量真空ポンプを備え、高地環境をはじめとし高高度大気環境、火星大気環境など様々な大気環境を実現できる国内最大級の多機能型共同利用施設です。もちろん学生実験にも使用しています。2期生は、公務員試験、大学院入試へ再挑戦を志す者など6名と諸事情により就職を希望しない者3名を除き104名が就職先（大学院進学者を含む）を確定し卒業式を迎えることができました。教員では残念ながら神野教授が平成25年11月に、松田教授が平成26年2月に、そして町長教授が3月に相次いでご定年とされましたが、昨年10月には豊田中央研究所より秋濱一弘先生が新たにご着任になりました。また3月からUCLAに派遣されていた小森谷先生も無事ご帰国され、全教員一丸となって研究教育に邁進しております。そして新1年生145名も元気いっぱい、5月の学部スポーツ大会で総合優勝を果たすことができました。



大型実験施設 LINCS



スポーツ大会総合優勝

創生デザイン学科

【学生数】学部533名

【トピックス】「金屋町楽市inさまのこ」審査員特別賞受賞

富山大学芸術文化学部、高岡市教育委員会等で構成される金屋町楽市実行委員会が主催する「金屋町楽市inさまのこ」（平成26年9月20日・21日）において、創生デザイン学科卒業生で三井研究室に所属する熊谷正徳さん、島田英里子さん、豊野さやかさん（数理情報工学専攻在学中）が、和紙で出来た「花入れ」を出品販売し、展示された95人（社）の展示の中から審査員特別賞に輝きました。この催しは、国重要伝統的建造物群保存地区に指定された千本格子（さまのこ）のある町並みを舞台に、伝統工芸品を展示・販売するもので、今年が7年目。3人が出品した「花入れ」は、アルゴリズムデザインという数学やコンピュータを用いてデザインしたもので、たくさんのお客様から好評をえました。



花入れ



北日本新聞9.12抜粋

教養基礎科学系

【人事】系主任：福島昇教授（英語）。3月に高村隆教授（歴史）、兼房慎二教授（物理）が退任し、4月に新任教員として、成田広樹助教（英語）、町田祐一助教（歴史）、大島佐知子助教（物理）が着任しました。これにより、平成26年度4月現在の教員構成は、教授12、准教授20、専任講師1、助教12の45名と教職科目の准教授1名となっています。

【トピックス】○今年度は、カリキュラム改訂2年目で、昨年度の「初年次ゼミ」に続き、「2年次ゼミ」、「連携科目」が新たに加わりました。「2年次ゼミ」も「連携科目」も専門学科と教養・基礎科学系の区別なく全教員が担当しています。○4月7日、実習イベントの一環として、新入生歓迎会が津田沼キャンパスの体育館で盛大に開催されました。○4～5月、各学科（4/12 マネジメント工学科、数理情報工学科、4/19 機械工学科、電気工学科、土木工学科、応用分子化学科、環境安全工学科、4/26 建築工学科、5/10 創生デザイン学科）による新入生オリエンテーションが関東地方を中心に行われ、新入生と教員の親睦がはかられました。○5月17日、スポーツ大会が実習キャンパスで実施され、新入生と教員が様々な競技に参加し汗を流しました。



新入生歓迎会

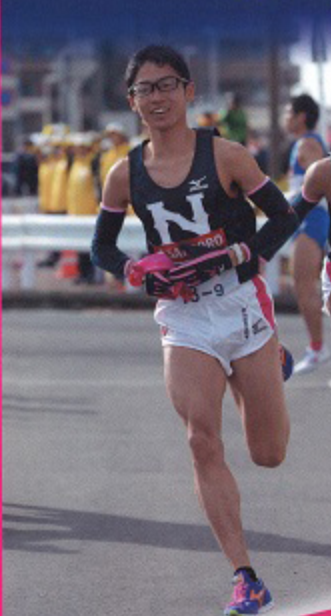


スポーツ大会

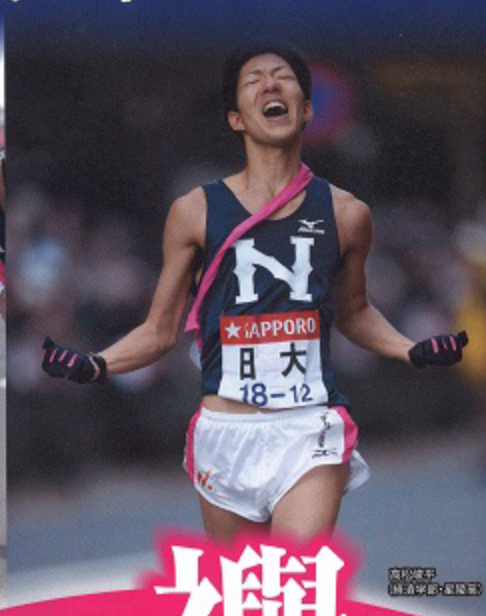


第91回

箱根駅伝



林佳音
(文理学部・経済学系)



高杉雄平
(経済学部・経営学系)



竹ノ内雄樹
(経済学部・経営学系)

走れ日大!

襷

110万人の仲間と共に



祝! 第91回東京箱根間往復大学駅伝競走 85回目出場!

日本大学校友会
スポーツ振興特別委員会
<http://www.nichidai-sports.jp>
箱根駅伝応援サイト
<http://www.nichidai-ekiden.jp>

【日本大学保健体育審議会 所属競技部全32部】

陸上競技部	相撲部	体育部	スケート部	アメリカンフットボール部
陸上競技部	弓道部	射撃部	バスケットボール部	フェンシング部
水泳部	卓球部	重量挙げ部	バレーボール部	ゴルフ部
野球部	馬術部	ラグビー部	レスリング部	バドミントン部
ボート部	自転車部	ボクシング部	サッカー部	ハンドボール部
柔道部	テニス部	スキー部	ヨット部	応援リーダー部
剣道部	空手部			

寄付のお願い

口座番号 00190-7-585685 日本大学校友会スポーツ振興特別委員会

日本大学生産工学部校友会誌「桜生工」

発行：日本大学生産工学部校友会

住所：千葉県習志野市泉町1-2-1

TEL：047-476-1140

FAX：047-476-3510

HOME PAGE：http://www.ne.jp/asahi/nuit/koyukai/

E-MAIL：nuitkoyukai@nippon.email.ne.jp

印刷：株式会社 東工

住所：東京都北区赤羽北2-2-12

TEL：03-5963-5702

FAX：03-5963-5704

編集：日本大学生産工学部

校友会広報委員会